巻　頭　言

関西大学東アジア文化研究科紀要『東アジア文化交渉研究』の第15号をお届けする。今号も多くの論考・研究ノートを採録することができた。また本号は陶徳民教授の古稀記念号となっている。

陶先生は1951年上海の生まれで、青少年時代に学校教育を通じて一般教科のほかに「革命事業の後継者になるため」の思想訓導も受けられたそうである。いわゆる反帝国主義などがそれである。また当時の文化大革命に伴う階級闘争と路線闘争がもたらした国全体の無秩序状態、および1968年に始まった大規模な知識青年の下放運動の試練なども経験したというお話を個人的にもお伺いした。

1978年以降の改革開放への転換により、欧米や日本の情報がそれまで海外との関係がなかった中国の大学に一挙に入ることになった。それに伴い、陶先生は復旦大学大学院修士課程在学中に1984年12月より大学院交流研究生の身分で姉妹校の関西大学を半年訪問する機会（受け入れ担当者は大庭脩先生）を得ることになった。さらに1988年秋には、大阪大学大学院博士課程在学中にアメリカの諸大学（カリフォルニア大バークレー校、シカゴ大、イリノイ大、コーネル大、プリンストン大、コロンビア大およびハーバード大）への講演、およびそれとともに訪れたケンブリッジ大、パリ大、ローマ大および香港中文大の見学という二箇月にわたる世界一周旅行の機会を得たため、世界的な見聞を得て、視野を広められたとのことである。

1990年以降は、陶先生はプリンストン大東アジア学部訪問研究員とハーバード大日本研究所PDの任にあり、その後、マサチューセッツ州立ブリッジウォーター大学歴史学部助教授を務めた。1996年春に河田悌一先生と大庭脩先生の薦めで関西大学に転任され、1999年より本学文学部教授の職にある。特筆すべきは、2007年に関西大学で初めて採択された文部科学省グローバルCOE事業において、関西大学文化交渉学教育拠点（ICIS）のリーダーを担当されたことである。

ご専門は近世近代日本漢学史・近代東西文化交渉史で、日中英の言語に通暁された陶先生は、これまで優れた業績をいくつも挙げられ、学界に大きな影響を与えている。特に吉田松陰研究において、ペリーの旗艦日誌に記載されていた密航時間を明らかにされた事は、大々的にマスコミにおいても報道された。

大学院においても、陶先生のもとで修士号・博士号を取得された学生は枚挙に暇がない。その多くが、国内外の大学や研究機関、また一般企業において活躍されている。

筆者は陶先生と多くのプロジェクトに参加し、ご協力いただいた。特にグローバルCOE事業の時に開催された渋沢財団の寄付講座において、多くの著名な各界の先生方をお呼びすることができたのは、陶先生の豊富な交流関係なしには考えられ

なかったものである。

今後とも、陶教授の多くの分野においてのご活躍を願う次第である。

2022 年 3 月

関西大学大学院東アジア文化科副研究科長

二階堂　善　弘